別紙（R６版）

ＩＣＴ活用計画書（ほ場整備工）

（工事名：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

会社名：

　当該工事において活用する技術について、「採用技術番号」欄に該当建設生産プロセスの作業内容ごとに採用する技術番号を記載する。

　また、建設生産プロセスの各段階において、現場条件によりＩＣＴによる施工が適当でない箇所を除く施工範囲の全てで活用する場合は、左端のチェック欄に「■」と記入する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 建設生産プロセスの段階 | 作業内容 | 採用する技術番号 | 技術番号・技術名 |
| □ | ①３次元起工測量 |  |  |  | １ＵＡＶを用いた起工測量２地上型レーザースキャナーを用いた起工測量３トータルステーション等光波方式を用いた起工測量４トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量５ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた起工測量６無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量７地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量８その他の３次元計測技術を用いた起工測量 |
| □ | ②３次元設計データ作成 |  |  |  | ※３次元出来形管理に用いる３次元設計データの作成であり、ＩＣＴ建設機械にのみ用いる３次元設計データは含まない。 |
| □ | ③ＩＣＴ建設機械による施工 | □ | ほ場整備整地工 |  | １　３次元マシンコントロール（ブルドーザ）技術２　３次元マシンガイダンス（ブルドーザ）技術３　３次元マシンガイダンス（バックホウ）技術 |
| □ | 基盤整地及び簡易整備 |  |
| □ | ④３次元出来形管理等の施工管理 | □ | 出来形 |  | １ＵＡＶを用いた出来形管理２地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理３トータルステーション等を用いた出来形管理４トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理５ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた出来形管理６無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理７地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理８施工履歴データを用いた出来形管理９その他の３次元計測技術を用いた出来形管理 |
| □ | ⑤３次元データの納品 |  |  |  |  |

注１）ＩＣＴ活用工事(ほ場整備工)の詳細については、特記仕様書によるものとする。

注２）基本的には①～⑤の全ての段階においてＩＣＴ施工技術を活用するものとするが、施工者希望型では、一部でＩＣＴ施工技術を活用する場合も可とする。「一部でＩＣＴ施工技術を活用する場合」とは、①②③④のいずれかを含むものをいう。

注３）平面図、代表断面図、縦断図等に対象範囲概略を図示し、添付すること。